

(表11) 貸借対照表関係比率

【作成年度：2017年度実績】

	比 率	算 式 (*100) ① *注3	算 式 (*100) ② *注3	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	備 考
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	% 92.6	% 93.7	% 93.1	% 93.5	% 93.8	
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	7.4	6.3	6.9	6.5	6.2	
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金*注2}}$	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	6.0	5.7	5.4	5.1	4.8	
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	4.2	4.0	4.0	4.1	3.7	
5	純資産構成比率 (自己資金構成比率)	$\frac{\text{自己資金*注2}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	89.7	90.3	90.6	90.8	91.5	
6	繰越収支差額構成比率 (消費収支差額構成比率)	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	-7.3	-6.9	-6.6	-6.2	-5.6	
7	固 定 比 率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	103.2	103.8	102.7	103.0	102.5	
8	固 定 長 期 適 合 率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	96.6	97.7	96.9	97.5	97.4	
9	流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	176.0	156.0	174.1	158.0	167.4	
10	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	10.3	9.7	9.4	9.2	8.5	
11	負 債 比 率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	11.5	10.8	10.3	10.1	9.3	
12	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	168.8	216.4	222.6	214.5	232.5	
13	退職給与引当特定資産保有率 (退職給与引当預金率)	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
14	基 本 金 比 率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.0	99.2	99.4	99.6	99.7	
15	減 価 償 却 比 率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	54.7	54.9	55.2	55.7	56.6	

[注] 1 「学校法人会計基準」に基づく財務計算書類中の貸借対照表を用いて、表に示された算式により過去5年分の比率を記入してください。

2 「総資金」は総負債+基本金+消費収支差額を、「自己資金」は基本金+消費収支差額をあらわします。

3 2014(平成26)年度以前については、算式①を用いて、2015(平成27)年度以後については、算式②を用いて、比率を算出してください。

4 日本私立学校振興・共済事業団に提出している数値を記載してください。

【明治学院大学注記】

1 各比率は少数第2位まで計算し、少数第2位を四捨五入して少数第1位を表示している。

2 「減価償却資産取得価格(図書を除く)」は「(有形固定の期末残高+ソフトウェア期末残高) - 土地・図書・建設仮勘定の各期末残高」の計算式で算出した。